

市民の声

～行方市によせる想い～

行方市によせる想い



六笠 千愛
(行方市両宿)

「緑が豊か」多くの人がもっているこの街に対する印象であり、この街の長所だと思えます。私は、人と人との関わりが深く感じられる行方市が好きです。

しかし、最近では、交通機関がなく不便だと感じることもあります。

例えば、鹿島鉄道。私の友達に土浦の高校を希望する人がいましたが、鹿島鉄道が廃止になるということで、断念せざるを得なくなりました。また、反対に他の市町村から来る人も減るでしょう。とても残念なことです。

もう一つは、新しい鹿行大橋の早期完成です。今の橋では道幅が狭く

危険を感じ、夏には大渋滞をまねきます。

私は、行方市の交通機関が発達し、多くの人が住みよくなることを願います。そして、いつまでも、自然と人間がうまく共存していける街であって欲しいと思います。



キーワードは「交流」



宮路 久子
(行方市沖洲)

現在、市では市民代表、若手職員らによる熱心な討議「行方市総合計画策定市民会議」が開かれており、私もその一員です。

これまでに見えてきた市の未来像

へのキーワードは「交流」です。これは官と民、世代、分野、地域といった枠を越え積極的な交流を図ろうというもの。高齢者と子供世代との交流で子育て支援や伝統文化の継承を。若者たちに郷土愛を。各団体や異業種交流で活動の幅と深さを。基幹産業には県下一の野菜生産高を誇る肥沃な台地を活かそう・・・など。そのためにもまず市内縦横に走るミニバスの運行が欠かせない。

会議は継続中ですが、これらの提案が成立した後こそ実現へ向け、官民連携の共同作業が必要なのだと思います。

『常陸国風土記』記載の「なめくわしくに行方市」となったわがまち。この備わっている豊かな自然や歴史のある風土、そして人材を活かすきつていくこと。それが私の願う「まちづくり」と言えます。

親として行方市に望むこと



平塚 優子
(行方市新宮)

私の住んでいる所は、目の前に北浦の湖があり、緑のたくさんある自然豊かな所です。

小学1年生と5歳になる2人の娘も、この自然の中でスクスクと育つ

ております。

ただ、小学1年生の娘のクラスは、男の子4人、女の子3人の7人しかいません。少ないと先生に良く見ていただけるとか言われがちですが、大勢の中で揉まれ競い合い、友達の大勢の中で揉まれ競い合せてあげられないのが残念に思います。

親として望むことは、小学校の統合の実現、そしてスクールバスの運行です。私たちの財産ともいえる子供たちに安全で住み良く、学びやす

い環境を作
つてあげた
いと思いま
す。



編集後記



アジサイが咲く梅雨の季節に、この編集後記を執筆しています。今年、長期にわたって停滞した梅雨前線は、特に沖縄や九州地方に甚大な被害をもたらしました。改めて、自然の猛威とそれに対する人間の非力さを痛感させられたところでもあります。

物質文明が人々の暮らしを便利にさせてくれたことは事実であると思いますが、その一方で地球上の自然に多大な負担を強いてきたことも事実です。

行方市の基幹産業である農業は、これまで多大な自然の恩恵を授かりながら脈々と営まれてきた産業ですが、農業のように親水性の高い産業は、自然環境にもやさしいだけでなく、人々の心をも潤してくれるものと考えております。

間もなく季節は、ヒマワリの時期から足早に秋に移行していきます。そして行方市も合併してからもうすぐ1年。市民の皆様方と共に実り多き五穀豊穡の季節を迎えたいと考えているところです。

根崎勇三

広報委員会

- 委員長 寺内泰俊
- 副委員長 松兼幸蔵
- 委員 平塚文雄
- 委員 根崎勇三
- 委員 吉藤恵一
- 委員 小林久

- 塚本泰雄
- 宮内正
- 庄司茂美